

AKIRAKAMİYAMA Exhibition
神山明 展 空へ向かういくつかの夢



2017/6/15 thu-7/15 sat 桐蔭学園アカデミウム ソフォスホール

開館時間 = 10:30-17:30(最終入館 17:00) ▲入場無料 ■日曜休館 ●主催 = 学校法人桐蔭学園 ◆協力 = 浜田真理
桐蔭学園アカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614 TEL.045-975-2100 <http://toin.ac.jp/ma> TOIN GAKUEN ACADEMIUM

《もし明日、わたしたちに何がおきても》1994年

神山明展 空へ向かういくつかの夢

AKIRAKAMIYAMA EXHIBITION

「神山明展 空へ向かういくつかの夢」
開催にあたって

学校法人桐蔭学園 理事長 平岩 敬一

《空へ向かういくつかの夢》《もし明日、わたしたちに何がおきても》《夢のような気がするね》。まるで詩の一節のようなこれらの言葉は、美術家・神山明さんの作品につけられたタイトルです。

神山さんは、木を使った立体作品を数多く発表してきました。作品は三日月、球体、旗、船、塔など、さまざまな形の組み合わせで構成され、まるで物語の世界に足を踏み入れたような感覚を抱きます。細部まで精巧に作られた作品は、幻想的でありながらどこか懐かしさを感じる不思議な魅力に満ちています。

神山さんは1953年東京に生まれ、横浜市で育ちました。1977年東京芸術大学大学院を修了、作品の素材として〈木〉と向き合うようになったのは30歳の頃でした。1989年には世界的に有名な現代美術の国際展覧会「第20回サンパウロ・ビエンナーレ」に、日本代表の一人として招聘されました。

神山さんはあるインタビュー⁽¹⁾で、「美術という前提なしで、見る人とコミュニケーションしたい」と話しています。美術の専門的な知識や思想などに縛られることなく、生のままの自由な感性で作品を受け止めてもらうことを願っていたのかもしれませんが。2011年、亡くなる一年前には次のような言葉を残しています。

『『あなたは何のために生きているのか』と聞かれて、本気で答えようとしたらもの凄く難しい。同じように『あなたは何のために作品を作っているのか』と聞かれたら、たぶん本当の事は答えられないくらいに、ものすごく難しいだろう。格好つけた答えはいくらでも出来るだろうけれど。』——日々、作品と自分とに問いかけ、手を休めることなく制作とそれに関わることに傾注した生涯でした。

本展では神山さんの40年におよぶ作家生活の初期から晩年の作品まで、約50点を展示いたします。詩情豊かな風景が広がる会場で、作品を深く味わい、有意義な鑑賞の時間を過ごしてください。心に響くものを大切に感じながら、桐蔭生のみなさんの想像力や情操が育まれることを願います。

開催にあたり、ご遺族の皆様をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

(1)『月刊アトリエ』1989年8月号



《空の伝言》1988年



《意外な私》1992年

神山 明 (かみやま あきら)

1977年東京芸術大学大学院修了。在学中より神奈川県美術展などに出品。1985年より杉とオイルステインを用い、記憶にある懐かしい風景と物語が紡がれるような幻想的な空間を形にして独自の作品世界を表現。国際展覧会や日本各地の美術館の企画展など多くの場で作品を発表し、個展、グループ展も精力的に行ってきた。1997年中学校の美術教科書「美術2、3上」（日本文教出版）に作品が掲載。教員歴では東京芸術大学、東京大学などの非常勤講師、1985年より東海大学教養学部芸術学科講師、1996年より同教授を務めた。2012年12月、59歳で逝去。



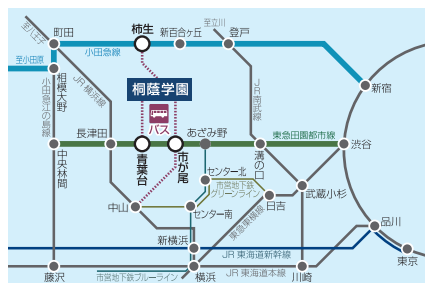
《世界のはじまり 世界の終わり》2008年



《夢のような気がするね》1988年

TOIN GAKUEN ACADEMIUM

桐蔭学園アカデミウム 交通のご案内
※駐車場はございませんので、公共の交通機関等をご利用ください。



- 【バスご利用の場合】各駅より約15分
- 東急田園都市線 青葉台駅より「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
 - 東急田園都市線 市が尾駅より「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
 - 小田急線 柿生駅より「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車

- 【タクシーご利用の場合】
- 東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅からが便利です。行き先は「桐蔭学園 鉄(くろがね) 神社前」とお伝えください。